

きぼう

明石市立大久保北中学校 第2学年
学年通信 第51号(151)
令和元年10月9日(水)

現在は過去の集積である。未来の幸福は今築きつつある。

学校ホームページ URL : http://scwww.edi.akashi.hyogo.jp/~jr_okbn/

新人総体、次は・・・

文化祭の成功を目指して!! ~ 合唱は心の表現だ! ~

全力合唱

~ Don't Forget to Smile ~

金曜日は中間考査がありますが、勉強のすすみ具合はどうでしょうか?新人総体があり、次の東播新人総体にすすむ部活の人は大変な人も多いと思います。新人総体では、どのクラブもよく頑張りました。日頃の練習の成果、そして本番での勝利への意欲の表れではないでしょうか。更に、東播新人総体に向けて精進していきましょう。頑張ってください。



テストに関しては、2年目ともなると、要領もわかってきて少しは計画的に勉強ができるようになったでしょうか。授業の様子を見ていると、集中して勉強している姿が見られるようになり課題のワークなども早めに仕上げる事ができているようです。これからの勉強は、一つ一つが3年生での大きな力になっていくのですよ。

さて、勉強は勉強としてしっかりと続けていかなければなりません。並行して文化祭に向けての取り組みが始まりました。文化委員を中心とした各学級の実行委員のみなさんにとっては特に大変だと思いますが、それだけにやり甲斐も大きいと思います。体育大会での成果と課題をフルに生かし、学級・学年の団結を、合唱で表現してください。

人権作文発表会

~ 発表者の作文より② ~

◆「見えない、気づかない差別」

人権作文を書く為に人権について考えた時あるネットニュースを思い出しました。「肌の色と聞いて思い浮かべる色は何色ですか?」という記事です。

アメリカに住む黒人男性は子どもの頃から明るいトーンの絆創膏を何千回以上も使ってきましたが、生まれて初めて自分の肌の「色に合った」ダークカラーの絆創膏を付けて感動し涙が流れたという話です。「今、自分には居場所がある」と感じたそうです。私はいつも何気なく使っている絆創膏が人権問題になるとは思ってもみませんでした。記事の中に「絆創膏の色が明るいトーンであることを彼は“社会の普通”だと考えていた。」という部分を讀

み、誰が「社会の普通」を決めてしまったのだろうか?どうして誰も何も思わないまま定着してしまっただろう?と思いました。この記事には男性がダークカラーの絆創膏を付けた写真も一緒にあり、記事の内容を読む前に見ました。初めて見た写真に私は何の事だろう?と何も気づくことができませんでした。私のような感覚の人間が「社会の普通」を決めているのではないかとすると、とても心が苦しくなりました。私も幼い時から絆創膏を使っていますが、明るいトーンの絆創膏は私の肌になじみ、ケガをした部分が目立たず、友達が付けていても全く違和感がありません。しかし、黒人男性の肌にはなじまず目立ってしまいます。世界中の人々の肌の色は全て同じではありません。この事は誰でも知っているのに、絆創膏の色は明るいトーンの物が世界中で売られています。私も絆創膏の色は明るいトーンしか想像できませんでした。

ここで最初の問いに戻りたいと思います。「肌色」と聞いて思い浮かべる色は何色か。私はこの絆創膏の話を知るまで、全く考えた事がなく、気にした事ありませんでした。この「肌色」が指している肌というのは少なくとも「有色人種」の人たちは含まれていません。肌色とはこの色だと決めつけていたと初めて感じました。

母が小学生だった頃、「はだいろ」と書かれたクレヨンや絵の具を使っていたそうですが、母が私が小さい時に買ったクレヨンを見て、「はだいろ」から「うすだいだい」へ変わっている事に気づいたと教えてくれました。私が持っている色鉛筆やポスターカラーに「はだいろ」と書かれた色はありません。「はだいろ」という呼び方が変わった理由は決めつけていた社会の普通と間違いがあった事に気づいた結果だったのではないかと思います。

記事の最後に「白人が“社会の基準”として有色人種よりも優遇される状況が、絆創膏やクレヨンにまで及んでいたことに多くの人が“気づかされた”とありました。見えない、気づかない差別というもの、無意識に人を傷つけ、存在を否定しているのは、恐ろしい事だと学びました。他にも見えていない、気づいていない差別はたくさんあると思います。みんな何も気づかないまま過ごしてしまうのかもしれない。でも私のようにネットニュースの記事や、誰かの声で気づかされる人もたくさんいます。見ようとする、気づこうとする意識をするだけで変わるものがあります。だから多くの人に意識してほしいし、忘れてはいけないと思います。

人権作文校内発表会を聞いて

◆一番印象に残っているのは2組の〇〇さんの「見えない、気づかない差別」です。この人権作文を聞いて、自分の中の当たり前が人を差別することに繋がっているのだと知りました。小さい頃に何気なく使っていたクレヨンなども差別に関することだと知り、大切なことを分かっていなかったのだと気づかされました。これからは身近な人権から大切にしていき、偏見や差別など嫌な思いを人にさせることのないように、人の気持ちを考えて生活していきたいと思います。

◆印象に残った作文は〇〇さんの「肌の色は何色だと思いますか。」です。僕も今までは勝手に自分達のような肌色だと決めつけていました。しかし、その作文を聞いて気づかない差別をしているなど共感しました。また、色鉛筆やクレヨンなど昔は、はだ色とかいて勝手に社会の普通を決めつけていると思いました。しかし、今ではだいたい色などと気づかない差別に気づいて改善していると聞いて良かったと思ったし、こういうことを社会問題としてもっと早く改善するべきだったと思いました。